

## Uターン生活

高知市在住 猿田 利英

関東幡多の会(現土佐幡多の会)に初回から出席しており、以前、「ふるさと応援団員からの便り」に幾科年英の筆名で掲載していただきました。旧西土佐村出身の私は、昭和42年に西土佐分校を卒業して高知を離れました。

当時は集団でSL列車に乗って山口県防府市の学校に入校し、静岡県浜松から北海道、沖縄、横須賀勤務を経て平成13年9月に退職。その後、横浜に20年間移住し、横浜、東京日本橋から池袋に転職を重ねて、学校法人高等予備校の理事兼評議員となりました。

令和元年12月、妻が信号機の無い横浜市内の交差点を歩行中に、高齢者の運転する車との事故に遭い、付き添い介護の必要性から令和2年に退職と高知移住を決意し、令和3年に移住しました。私は55年ぶりのUターン、妻は浜松出身のためターナーです。

温暖な高知に住んでみると、病院や喫茶店の多いこと。ガソリン価格が横浜より20円も高く、幡多地方はさらに高いことに驚きました。令和4年8月には、東京で単身赴任中だった娘婿がアメリカ勤務となったため、新学期に合わせて北海道で暮らしていた娘や孫2人も高知に来て同居しています。

中学生の孫は土佐塾中学校に通学しています。以前、土佐塾中学校の生徒が登校中に、横断歩道上で大型トラックにひかれて亡くなられたそうで、交通事故防止の願いが込められたひまわりが育てられています。「命の大切さ」は、妻の交通事故からも教訓として身近に感じています。

事故は毎日どこかで起きています。私も後期高齢者、妻は前期高齢者となり免許返納も真剣に考えており、安心して安全に暮らすことが一番と考えています。

